



いのちとくらしをまもる
防災減災

令和5年1月23日
福岡管区気象台

春にかけて「あびき」に注意してください

これから春にかけて振幅の大きな「あびき(副振動)」が発生しやすい時期を迎えます。「あびき」による海面の昇降で、浸水や係留船舶の転覆などの被害が発生するおそれがありますので、ご注意ください。

「あびき(副振動)」とは海面が数分から数十分の周期で昇降を繰り返す現象のことで、振幅の大きな「あびき」が発生すると、潮位の上昇で海岸や河口付近の低地での浸水被害が発生するほか、海面の昇降や強い潮流によって港湾施設の破損、係留している船舶の流出・転覆などの被害が発生します。また、大潮の満潮と「あびき」の発生が重なると、振幅が大きくなっても浸水等の被害が発生するおそれがあります。

九州西岸や奄美地方ではこれから春にかけて、振幅の大きな「あびき」が発生しやすい時期になります。「あびき」により被害が発生するおそれがある場合は、気象台や測候所が潮位情報や高潮警報・注意報を発表しますので、これらの情報にご注意ください。

潮位情報や高潮警報・注意報は下記ページで確認することができます。

気象情報(潮位情報) :

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#7/31.935/129.611/&element=choi&contents=information>

警報・注意報 :

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#7/31.935/129.611/&elem=all&contents=warning>

「あびき」(副振動)については、以下の資料をご参考ください。

<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/shiryo/abiki-leaflet.pdf>

問合せ先 : 福岡管区気象台気象防災部地球環境・海洋課 担当 : 山下
電話 092-725-3613 (内線 3620)

1. 「あびき」とは

「あびき」とは、日々繰り返す満潮・干潮の潮位変化を主振動として、それより短い周期（数分から数十分程度）の潮位の振動（副振動）のことです（図1）。

「あびき」は、湾や海峡といった陸や堤防に囲まれた海域で、海水が固有の振動をすることにより発生します。沖合での気圧の急変によって発生した、水深に比べ波長の長い波（海洋長波）が、増幅しながら湾や港に侵入することにより、大きな「あびき」が起きると考えられています。特に春先は、上海の沖合で低気圧が発生しやすく、「あびき」も発生しやすい時期になります。「あびき」の語源は早い流れのため魚網が流される「網引き」に由来するといわれています。

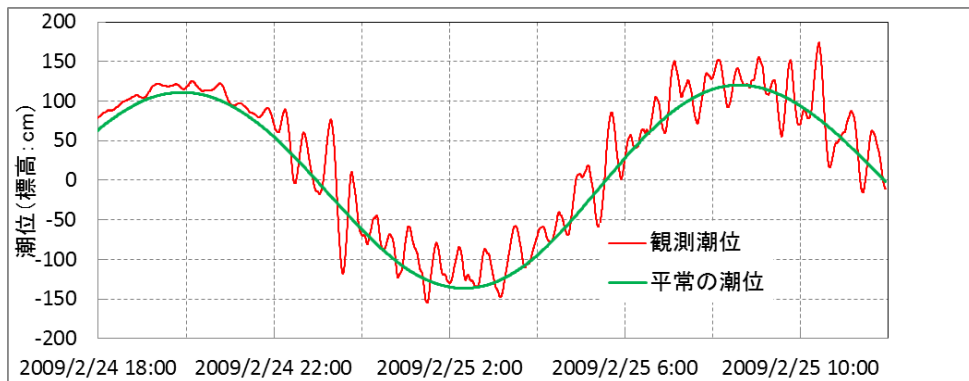


図1 「あびき」の2009年2月の事例（長崎港）
短い時間で海面の高さが大きく上下しています。

特に九州西岸や奄美地方では、これから春にかけて、振幅の大きな「あびき」が多く発生します（図2）。

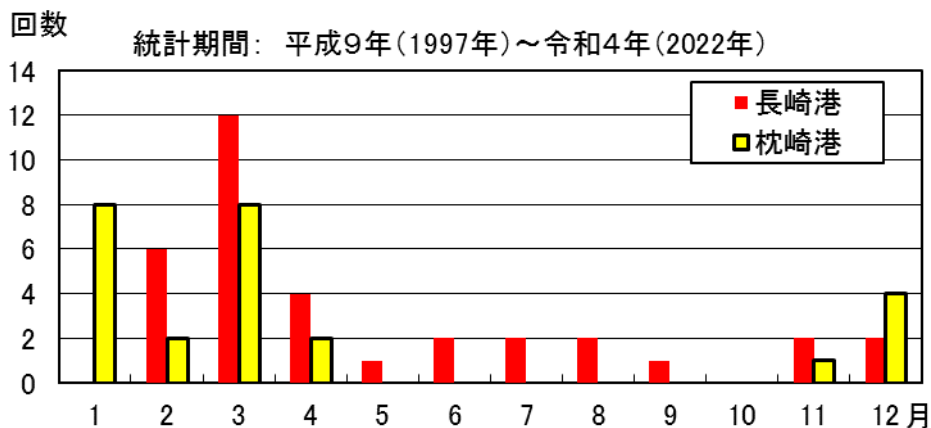


図2 「あびき」の月別発生回数
（長崎港（長崎県）と枕崎港（鹿児島県）における100センチ以上の回数）

2. 「あびき」による被害

振幅の大きな「あびき」が発生すると、潮位の上昇に伴う海岸・河口付近の低地での浸水、強い潮流に伴う港湾施設の破損や係留している船舶の流出・転覆といった被害が発生します。

観測史上最大の「あびき」は、1979年（昭和54年）3月31日に長崎検潮所（長崎県）で観測されたもので、最大全振幅（海面昇降の谷から山までの高さ）が278センチに達しました。



1979年3月31日の長崎県福江島富江港での船舶乗揚げ被害（西部海難防止協会「津波（長崎港アビキ）対策調査委員会報告書」（昭和57年3月より）



2009年2月25日の鹿児島県上甕島での道路冠水（薩摩川内市上甕支所提供）

近年の「あびき」による主な被害事例

発生日	被害の発生場所	被害状況
2009年2月25日	熊本県天草市	床上・床下浸水
	鹿児島県薩摩川内市上甕島	床下浸水、小型漁船の沈没・転覆
	鹿児島県いちき串木野市	小型漁船の沈没
	鹿児島県南さつま市	小型漁船の転覆
	鹿児島県屋久島町	小型漁船の小破
2009年7月15日	山口県萩市	床上・床下浸水
	長崎県対馬市	床上・床下浸水、小型漁船の転覆・破損・浸水
2010年2月1日	鹿児島県薩摩川内市上甕島	床下浸水
2010年3月1日	長崎県長崎市	床上浸水
2010年3月3日	鹿児島県薩摩川内市上甕島	小型漁船の転覆
2010年3月4日	長崎県長崎市	床下浸水
2019年3月21日※	長崎県長崎市	床上・床下浸水

※長崎検潮所で過去最高潮位を記録